

## 将来の組織像(ビジョン)達成の為に! 2015年版への移行を!!

沖縄地区担当営業/審査員 うえち まさかず  
上地 正和



貴社におかれましては、ご清勝の事とお慶び申し上げます。

さて、ISO9001・ISO14001:2015年版が発行され、今年度は多くのお客様が移行審査へ対応されるものと思われまます。そこで簡単にその対応ポイント及び期待できる効果について列記します。

**組織の状況の理解:** 普段から各企業様で企業戦略として取り組まれている外部・内部課題や利害関係者のニーズと期待への対応の見える化を進めることにより、全社的な企業戦略の落とし込みに繋がり、社員一人一人への経営の見える化・学習化・日常化等に繋がります。

**リスク及び機会への取り組み:** 特別なことでは有りません。業務での工程管理・品質管理・環境管理・安全管理・コスト管理等の業務管理で実施している事やその充実などに繋がります。

**事業プロセスとの統合:** 組織内での経営プロセスの見える化・その活用、業務で作成・活用され、お客様(発注者)へ提出される文書・記録の活用、経営・事業・業務等とのISOシステムの統合化を図ることにより、相当の簡素化・合理化・実体化が進みます。

**組織像の明確化・戦略的運用:** ISOシステム運用が、認証取得や認証維持の為だけでなく、将来の組織像・中長期の組織像(ビジョン)達成に戦略性をもった企業内改善活動を行うことで、持続的成長に役立つ仕組み・効果的運用に近づきます。

その他に幾らかの変更点はありますが、大きな内容は変わりません。まずは2015年版移行審査を受審されていないお客様は、審査に向けてご準備を進めていただき、そして、審査を通して弊社審査員と共にパフォーマンス・成果の継続的改善活動を重ねていただきたいと思います。私共も、年々組織の将来像達成に近づき、また、持続的成功・成果を達成、元気な会社作りに活かされる、2015年版・審査サービスの提供に努めてまいります。今後とも宜しく願い申し上げます。

[これから2015年版に取り組まれるお客様は、移行準備・運用・審査に向け、2015年版規格の導入、2015年版での内部監査・マネジメントレビューを実施下さい。]

## CONTENTS

- 01 将来の組織像(ビジョン)達成の為に! 2015年版への移行を!!
- 02 特集  
03 2015年版改訂の意図をより身近な形でとらえる  
-2015年版改訂の意図をより身近な形でとらえる  
-ISO9001/14001:2015移行対応セミナーのご案内
- 04 News & Topics  
-ISO45001 発行情報  
-審査員会議  
-規格改訂&CPDSセミナー展開中  
-Information: コーポレートシンボルマークの変更について
- 05 審査の現場から  
-お客様紹介  
(株式会社クワハラ)  
-連載よみもの  
「審査員の心理」(環境編)
- 06 連載よみもの  
-審査員リレーエッセイ  
「人との出会い、仕事を楽しむことの大切さ」  
(審査員 明石 義次)  
-環境とISO14001  
「COP22/脱化石燃料への大転換」
- 07 お客様からのお便り  
-「ISO9001:2015年版移行取組中」  
(川口電気株式会社)  
-「震災を経験して」  
(諫山工業株式会社)
- 08 研修コースのご案内  
-Information <重要>  
認証登録証明書データの発行について  
-コース案内  
-受講生からのお便り(ウシオオプトセミコンダクター株式会社)

# 2015年版 改訂 の 意 図 を

## より身近な形でとらえる

セミナー講師 / 品質・環境審査員 船井 勲

2015年9月にISO9001:2015、ISO14001:2015が発行されました。今後の審査は、原則2015年版となります。すでに2015年版移行審査を受けていただいたお客様をはじめ、次回審査での移行審査が確定しているお客様も多くあり、移行へ向けた動きも活発になってきました。

今号では、改訂の意図をより身近な形でとらえていただくため、主な変更点から2つを取り上げてご紹介します。移行へのご準備にお役立ていただければ幸いです。これから移行準備に取り組まれるお客様は、失効しないよう移行期限内での受審に向けて、計画・準備を進めていただきますようお願いいたします。移行対応用にセミナーも開催しておりますので、ご興味ございましたら弊社研修部までお気軽にお問合せください。 (編集部)

### はじめに

インターテック研修部では、ISO規格を身近なものとしてとらえることで、より良きビジネスのツールとなるよう、これからも皆様を支援させていただきたいと思っています。皆様にとってISO関係の今一番の課題と言うと、ISO9001:2015、ISO14001:2015ではないでしょうか。2015年9月15日の発行後、早くも1年半が過ぎようとして

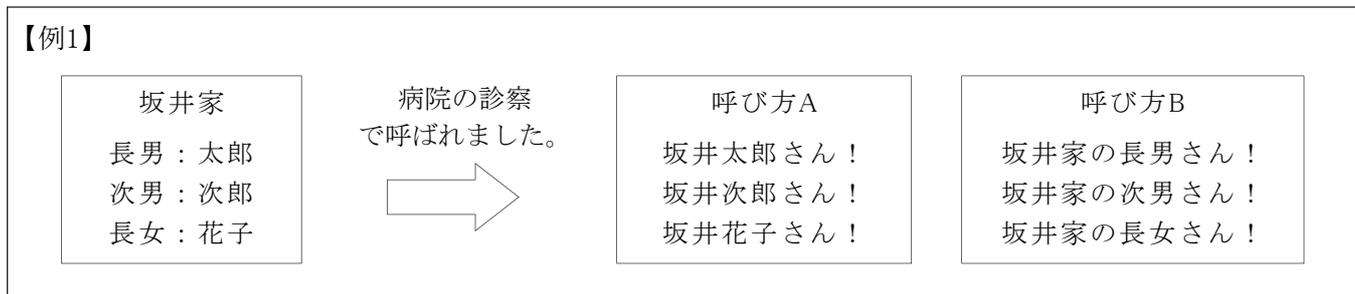
います。移行への準備ののち、今年または来年の審査で2015年版への対応を考えていらっしゃると思います。

今回は、これらISOマネジメントシステム規格を身近なものに例えながら、2015年改訂版の主な変更のうち、2点をご紹介します。

### 1. ビジネスとISO規格の一体化

2015版の目的の一つとして、ISO規格と仕事を統合しましょう、という要求事項があり、箇条5.1には「ビジネスと

マネジメントシステムを統合する」という記述があります。この概念を下記の例えで考察します。

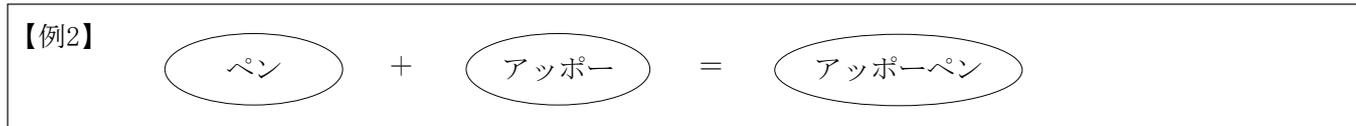


例1の「呼び方B」で呼ばれた経験のある方はまさかいらっやらないでしょう。「長男」「次男」「長女」は、一般名詞、「太郎」「二郎」「花子」は固有名詞です。このようにISO規格の用語を多用した社内ルールやマニュアルを作ると「呼び方B」のような、ぎこちないマニュアルになってしまいます。あまりマニュアルが活用されていない、

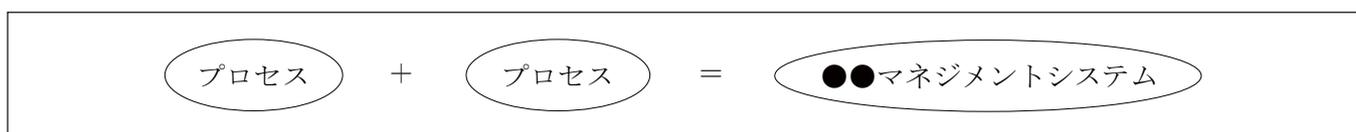
または、マニュアルは読んでもしっくりこないという企業様の文書は「呼び方B」のような記述になっているのかもしれない。呼び方Aのように、貴社の身近な言葉でマニュアルを作ると、箇条5.1「ビジネスとマネジメントの統合」に近づくかもしれません。

## 2. プロセスとマネジメントからISO規格を身近なツール(道具)ととらえる

2016年はPPAPというフレーズがブレイクしました。



これをISO規格的にやってみましょう。



ペンやアップルのように、ISO規格には、「計画」「受注」「環境側面」「順守」等の一般名詞的な要求(プロセス)がありますが、企業により中身は様々です。しかしながら、ISO規格の「計画」「受注」「環境側面」「順守」等の規格の言葉をそのまま貴社のシステム(マニュアルなどのプロセス)に組み込んでしまうと、例1のように、読んでもあまり面白くない、どこか他人の会社のようなもの・仕組みに思えてしまうかもしれず、ISOは仕事と別な事に思えてしまうかもしれません。

会社を構成する一個一個の要素(=プロセス)を貴社なりにくみ上げると、合成語である「アップーペン」のようなオリジナルの仕組み(活動=マネジメントシステム)が構築されます。どこにも存在せず、何にも似ていないもの

が貴社のマネジメントシステムであり、本業の仕事そのものなのです。

ISOをより身近なものにとらえ、仕事のよりよきツールとすべく活用されていく事、こんな意識を持って2015版の改訂が達成されたら幸いです。

そのためにも、私はISO規格を身近に感じてもらえる研修を心がけています。研修コースにご興味がありましたら、是非インターテック研修部までお問い合わせください。

筆者紹介

船井 勲 (ふない いさお)

ISO9001・14001内部監査員コース、規格改訂セミナー、その他セミナー講師、ISO9001・14001審査員。  
山梨県笛吹市在住。

注)ISO/TS16949の要求事項「製品承認プロセス(Product Approval Process, PAP)」、またはビッグスリーの要求事項「生産部品承認プロセス(Production Part Approval Process, PPAP)」がありますが、本文のPPAPはそれを指すものではありません。

### ISO9001/14001:2015 移行対応セミナーのご案内 (5~9月開催)

移行準備としてご活用いただけるようISO9001/ISO14001:2015移行対応セミナーを開催しております。春夏期の開催日程についてご案内いたしますので、ご興味ございましたらお気軽に弊社研修部までお問合せください。弊社ホームページでも日程のご確認、お申込みもいただけます。

コース名	会場	開催日程	コース名	会場	開催日程
ISO9001:2015移行対応セミナー	東京	2017年5月10日(水)	ISO14001:2015移行対応セミナー	東京	2017年5月17日(水)
		2017年6月 6日(火)			2017年6月26日(月)
		2017年7月19日(水)			2017年7月18日(火)
		2017年8月28日(月)			2017年8月22日(火)
		2017年9月20日(水)			2017年9月19日(火)
	青森	2017年5月17日(水)		青森	2017年5月16日(火)
	宮城	2017年6月20日(火)		宮城	2017年6月14日(水)
大阪	2017年8月 4日(金)	大阪	2017年9月 1日(金)		

## ISO45001発行情報

—発行までのスケジュールに変更なし  
早ければ本年11月頃、遅くとも来年3月—

2017年2月6日～10日にオーストリアのウィーンで開催されたISO/PC283/WG1会議の結果、DIS2(国際規格原案第2版)の編集発行が合意されました。今後のスケジュールは下記の通りです。

- 2017年3月  
DIS2(国際規格原案第2版)の編集と準備
- 2017年4月～5月  
DIS2(国際規格原案第2版)の各国語翻訳
- 2017年6月～7月  
DIS2(国際規格原案第2版)賛否投票
- 2017年9月18日-23日  
ISO/PC283/WG1会議がマレーシア・マラッカで開催。投票結果のレビューが実施されます。DIS2(国際規格原案第2版)が承認され、FDIS(最終国際規格案)段階が必要ないと決まれば、今年の10月-11月に発行される見込みです。FDIS(最終国際規格案)段階が必要となれば、発行は来年の3月頃になると思われま。

## 審査員会議

弊社ではISO9001・14001・27001・OHSASなどの規格別に年間複数回と、全規格合同で1回、審査員会議を行っています。3月に開催しましたISO9001・14001各会議では、今後ますます多くなる2015年規格移行審査の対応などを中心に進められました。

具体的には、ISO9001会議では、ISO9002/TS9002:2016(ISO9001:2015適用の指針)について説明がありました。当指針では、組織の規模に寄らず、自身の品質マネジメントシステムを実施する為の逐条的な指針と事例が提供されています。ISO 9001:2015の要求事項をより詳細に理解し、同時に恩恵を得たいと願う組織にとっては理想の規格とされています。

また、ISO14001会議では、ISO14004:2016(環境マネジメントシステム—実施の一般指針)についての説明がありました。信頼性のある、環境マネジメントシステムを確立し実施し維持し継続的に改善することに関する、組織の為の指針です。ご興味があれば、両指針とも日本規格協会のHPから購入できます。

## 規格改訂 & CPDSセミナー展開中

2017年2月から3月にかけて、関東、東北、中国地区で、「規格改訂 & CPDSセミナー」を実施しました。

セミナー内容は、午前中は全業種対象でISO9001・14001の2015年版規格改訂の説明(規格改訂に伴う重要変更点、取り組み内容、やるべき事について)や事業プロセスの一体化として施工計画書の内容とISO要求事項とのつながりなど事例紹介を行います。

午後からは主にDVD学習・グループワーク等です。その中でPDCAの学習に加え、2015年版規格改訂を受けた活用事例紹介、さらに、来年発行が見込まれているISO45001規格についても紹介しています。特に当セミナーは建設業向けCPDS:5ユニットに対応しており、該当者には好評でした。

今回の開催時期は多忙な建設業様が多かったこともあり、次回は5月～6月の開催を予定しており、それ以降も順次、中国、関西、関東、東北地区などでも追加開催の準備を進めています。(問い合わせ担当: 上地まで masakazu-uechi@moodygroup.co.jp)

## INFORMATION

### コーポレートシンボルマーク変更のお知らせ



この度インターテックグループは、コーポレートシンボルマークを変更致しました。

順次、新しいシンボルマークに切り替えを進めておりますので、よろしくお願ひ致します。

**尚、「認証マーク(お客様が名刺などでお使いの地球儀マーク)」の変更ではありませんので、お客様に取っていただくアクションは現状ではございません。**また、認証登録証明書のシンボルマークは、順次切り替えていきますので、当面はこれまでのシンボルマークのものが発行される旨、ご了承ください。

新しいシンボルマークは、Intertek社史において、きわめて重要な瞬間・・・トーマス・エジソンによる白熱電球の発明と、Intertekの前身であり、エジソンによって設立されたランプ試験局からヒントを得ています。Intertekは、エジソンのイノベーションに対する情熱を思い浮かべ、新しいブランド・アイデンティティを展開させてきました。それは一貫性と正確さへの私どものコミットメントを具体化するものであり、明るくポジティブな未来を指し示すものです。

新しいIntertekロゴはテクノロジーと進歩を示し、輝く「i」のドット(黄色の点)は、エジソンの研究所における電球のひらめきを想定しています。

お客様  
紹介

## 株式会社クワハラ 様

(ISO14001:2004、ISO39001:2012 認証登録)

〔取材者〕 審査員 美濃 英雄 Hideo Mino



上) LEXUS LS600hL 下左) ELGRAND VIP 下右) リムジンハイヤー

株式会社クワハラ様(横浜市)は昭和46年創業、「独創的経営」を社是とされ、建設機械リース業・一般貨物運送事業・一般土木施工管理、不動産開発から一般乗用旅客事業へ参入されています。

ISO14001に続き、ISO39001も認証取得され、審査では高い安全性が顧客満足に結び付いていることが確認されました。修理中の車両から整備上のリスクが発見された場合、毎月の研修会で報告し、インシデントの未然防止に展開されています。高級リムジンとハイヤー車両は、LEXUS LS600hL EXECUTIVE package ロングボディ、エルグランド・アルファード・ベルファイアのハイグレード仕様から、ジャンボハイヤー(9名乗車)、ペットタクシー(大型犬

可能)など、取り揃えられています。サミットや国際会議用にも指定され、長距離利用の固定客や、観光用にも利用されています。乗務員は前職が八百屋、製造業、役員秘書など様々で、英語は当然、その他の言語も勉強されています。

また、お客様には、目の前のタクシーに乗らず、300m先に停まっていた同社タクシーに乗りに来られたり、利用されるたびに乗車レポートを送ってこられる常連の方もおられるとのことです。私も一度 LEXUS LS600hLに乗ってみたいものです。

<http://www.kuwahara-jun.com/>

### 連載よみもの

## 審査員の心 理

### 第22回 (環境編)

### 「組織の状況」

環境主任審査員 大村 敏夫 Toshio Omura

一昨年の9月にISO14001:2015が発行され、2015年版規格での新規登録審査や移行審査も入り始めています。今回の改訂では、規格要求事項の表現は変わっている箇所もありますが、規格が意図すること、すなわち、全ての組織が環境に配慮した適切な活動により環境保護に貢献し、人類の持続的発展が可能な社会を実現する、という方向には変更は無いと捉えています。

2015年版の規格は、環境への取組みの方向を決定するまでの筋道を明確にすることから始まります。まず、「4 組織の状況」は、2015年版で新たに追加された項目で、組織の位置づけを明確にします。ISO14001では、以前から初期環境レポートで状況を把握することが推奨されてきましたが、初期環境レポートのようなもので現状をレビューすることも一つの手段でしょう。組織の地域、業界および社会の中での位置づけ、存在意義、利害関係者からどのようなことが望まれているかを把握して、内部及び外部の課題を明確にすることが要求されています。2015年版では、「環境状態」という考え方が導入され、組織と環境が

相互に影響を与えている状況も考慮します。組織は環境に負荷を与える存在であるとともに、組織も環境から影響を受ける、例えば気候変動の結果としてエネルギー使用量が増えるなどの影響を受けるかもしれません。環境の利害関係者は不特定多数になり、地域住民、顧客、行政などが例として挙げられます。地域住民は生活環境が悪くならないことを望むでしょう。利害関係者には、現在の人だけでなく、後世の人も利害関係者と捉えると、資源を将来の世代に残すことも利害関係者のニーズになります。

また、内部の状況についても考える必要があります。環境管理に関わる力量のある人材や設備の確保が難しいかもしれません。設備の老朽化も進んでいるかもしれません。生産量を上げることで環境負荷も増える傾向にあるかもしれません。

そのような状況から生じる内部・外部の課題は、環境管理システムで何を指すのかの出発点になります。



## 審査員リレーエッセイ ⑤4

**From**  
鹿児島県曾於市  
**明石 義次**  
(あかし よしつぐ)

**Profile**  
専門分野: ISO9001・ISO14001—電気、電子、防衛機器プロジェクト、建設、機械部品加工  
経歴: インターテック審査員(現職)



審査員からのエッセイをお楽しみください。

### 「人との出会い、仕事を楽しむことの大切さ」

今日まで審査の仕事をして来られたことは感謝なことです。

それはまず坂井社長と出会えたこと、そして審査を指導して下さいました松尾審査員(当時)に出会ったことです。

テレビ番組「奇跡のレッスン」で見たコーチは、“楽しんですること、



その結果自分の持ち味(潜在能力)を引き出す”ことをトレーニングしてくれます。この番組を見て、お二人から学んだことと同じであることを思い浮かべました。

仕事は楽しんでしなければ、良い仕事が出来ません。以心伝心で自分が楽しんで仕事をすれば、お客様にも喜んでいただけたと思います。

## 連載「環境とISO14001」⑤4

### 「COP22/脱化石燃料への大転換」

環境主任審査員 **郷古 宣昭** Nobuaki Goko

COP22(国連気候変動枠組条約第22回締約国会議)が2016年11月7-12日に開催されました。これに先立ち、11月4日には「パリ協定」(本誌Vol.52参照)が協定締結から1年足らずという異例の早さで発効しました。このためCOP22は、パリ協定第1回締約国会議(CMA-1)も兼ねることになりました。

#### 1. パリ協定に触発された国際協定

- 国際航空機のCO<sub>2</sub>排出規制  
2020年以降の新設計航空機及び2023年以降に引き渡される製造中の航空機に適用されるCO<sub>2</sub>排出規制が決まりました。
- モントリオール議定書の改正  
これまで規制されていないHFC(ハイドロフロロカーボン)を段階的に削減することになりました。(先進国は2019年から削減を始め、2036年には85%削減)

#### 2. COP22で決まったこと

- パリで培われた政治的意志が確認され、「マラケシュ行動宣言(付表)」に反映されました。政府以外の様々な団体に参加と協力を求めました。
- パリ協定の実施規則の交渉計画と当面の作業工程を決定しました。実施規則そのものはCOP24で採択されます。

- 2020年からのパリ協定の本格始動に向けて各国はGHG(温室効果ガス)の削減目標を提出しますが、これに伴ってより高い目標値に引き上げる「促進的対話」を始めます。
- 途上国に技術・資金を援助して途上国のGHG削減の寄与分を自国の目標達成に利用することが一定の国際ルールに従うことを前提に認められました。

#### 3. 非政府組織の活躍

- 企業、自治体、投資家、NPOが多数のイベント・プレゼンテーションを催し、脱炭素化へのうねりを広げました。以下はその一例です。
- 「RE100」グループ  
使用エネルギーを化石燃料から100%再生エネルギーに転換することを目指す企業グループの拡大(アップル、グーグル、GM、HP、コカ・コーラ等80社)
  - 「世界大都市気候先導グループ」  
気候変動対策に関する知識共有を図り、部門別に20のネットワークを構築。参加86都市、関係人口は6億人。
  - 「ESG責任投資グループ」  
世界の主要金融機関は、化石燃料資産は「座礁資産」(負の資産)であり、今やリスク要因であるとして石油精製会社からの資金引き揚げを通告。

【付表】

#### マラケシュ行動宣言(要旨)

- 気候はかつてないスピードで温暖化が進んでいる。気温上昇を2℃、できれば1.5℃未満の水準に抑え、世界全体の温室効果ガスの排出量を減少に転じ、実質ゼロを目指す。
- パリ協定の完全な実施を確認した。
- 市民社会、民間部門、金融機関、都市等の締約国以外のすべての利害関係者の協力・参加を歓迎する。

#### 4. 歴史的転換を迎えた地球の温暖化

196カ国もの国とEUが次世代の人々のために、自らを制する目標を立てて、実行するために手を結んだのがCOP21のパリ協定であり、そこで生まれた勢いを維持し、脱化石燃料へ動き出したのがCOP22です。この大転換を可能にする背景には再生可能エネルギー、とりわけ太陽光発電のコストが化石燃料の発電コストより低くなることが確実にになったこと、これまでの「先進国対途上国」の対立がなくなり、中国やブラジル、インド等が主導する「南南協力体制」が生まれたことがあります。この大きなうねりはもはやトランプ大統領でも止められないと関係者は見えています。

このような転換期に何をすべきか次の機会に改めて考えてみましょう。

## ISO9001：2015年版移行取組中

川口電気株式会社 (ISO9001:2008認証登録)

品質管理責任者 谷口 豊昭

川口電気株式会社は福井県敦賀市に本社を置き、2003年にISO9001を取得しています。

私が、40年勤めた会社を定年退職し、電気設備業では地域のリーダー企業の現在の会社に再就職して3ヶ月半。ISO9001:2015年版移行が今の私の仕事です。ISOには寡聞浅学な私でしたので、先ず10月末にIntertek様で開催された「移行セミナー」を受講、しかしながら規格要求事項を初めてみるような私には、移行に対してどう取組んで良いのかは五里霧中の状態でした。そんな時にフセハツ工業様の品質マニュアルをWebで見つけ、まさに霧の中に一条の光を得た心境でした。このマニュアルが大いに参考になり1か月強で移行の原案を完成させることが出来ました。

後日、フセハツ工業様がIntertek様の認証先と知りました。フセハツ工業吉村社長様にはこの紙面をお借りして御礼

申し上げます。また、相談会で理解を深めさせていただきましたIntertek様有難うございました。今年10月の移行審査受審に向け取組んでいきます。



本社（敦賀市）

▶ <http://kawaguchi-denki.jp/>

## 震災を経験して

諫山工業株式会社 (ISO9001:2008、ISO14001:2004認証登録)

品質管理室長 橋本 光生

弊社は、公共工事が主体の建設業者で熊本県熊本市に本社があります。道路や河川及び下水道などのインフラ整備に携わり、今年で設立70周年を迎えます。2011年、ISO9001、ISO14001と一緒に取得しています。

昨年4月、熊本を襲った地震は、前例のない強い地震でした。震度7クラスの地震が、僅か28時間弱の間に2度、しかも同じ町に発生したのです。写真は震源地のすぐ近くで、最も被害の大きかった上益城郡益城町の県道です。メインの避難場所である益城町総合体育館につながるルートで、支援物資を運ぶため一刻も早い復旧が望まれました。本震が発生して2日後の夕方、国土交通省から打診を受けた弊社ともう1社が作業を分担し、復旧工事が急ピッチで進められました。時おり強い余震が起こる中、徹夜の作業で何とか24時間後に舗装まで完了させることが出来ました。

今回の震災では、暖かい励ましのお言葉や、水や食料などの支援物資を多方面よりたくさん頂きました。また、ボランティアの方々、警察や消防、ゴミ収集車まで、県外の皆様が数多く応援に駆けつけてくれました。それを目にする度に目頭が熱くなり励みとなりました。ご支援頂いた多くの皆様に関心から御礼申し上げます。本当にありがとう御座いました。



震災直後の復旧工事現場

▶ <http://isayamakougyo.jp/>

お客様各位

日頃は弊社審査をお受け下さり大変ありがとうございます。

一部の規格では本サービスをすでに開始しておりますが、2017年6月1日以降に審査致します以下のマネジメントシステムの認証登録証明書は、環境への配慮、省スペース化などから、弊社で進めておりますシステム化の一環として、印刷した紙媒体でのお届けではなく、データ(PDF)版をEmailにてお届けする方法に変更させて頂くことになりました。

## ◆対象規格◆

ISO9001, ISO14001, OHSAS18001, ISO27001, FSSC22000, ISO22000,  
ISO39001, ISO/TS16949(IATF16949), AS9100, JGAP, GGAP

ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

【認証登録証明書に関するお問い合わせ先】

東京事務所 各規格認証部宛 Tel:03-3669-7408 Email:info.ba-japan@intertek.com

## 研修コースのご案内

開催日程・開催地等、研修に関する詳細は弊社ホームページにてご確認ください。

### 内部監査員研修コース

マネジメントシステムの維持・改善のために必須の内部監査。その知識とスキルを身に付けます。これから導入を予定されている企業や、既に導入され更に効果的な運用を目指される組織の皆様方にもお薦めです。

#### ●内部監査員コース

9001/14001/18001/27001/39001 (2日間)

**開催地** 東京・大阪・名古屋・浜松・富山・金沢・新潟・福井・他

- 対象者**
- 品質/環境/労働安全衛生/情報セキュリティ/道路交通安全マネジメントシステムの導入を予定/検討している
  - システムをより効果的に運用したい
  - 効果的な内部監査を行いたい

### 移行対応セミナー

ISO9001:2015、ISO14001:2015へのスムーズな移行に向けて、規格要求事項の考え方、各条項の詳細内容と解釈、重要ポイントなど、演習を交えて分かりやすく解説します。モデルケースの解説を元に具体的な対応策をご理解頂けるような内容になっています。

●ISO9001:2015 移行対応セミナー (1日間)

●ISO14001:2015 移行対応セミナー (1日間)

**開催地** 東京・大阪・名古屋・浜松・仙台・青森・他

- 対象者**
- ISO9001:2008/ISO14001:2004を既に運用している
  - 管理責任者、内部監査員(中～上級者向け)

\*弊社ホームページよりお申込み頂けます。FaxまたはEmailでのお申込みの場合は、ホームページより申込書をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、ご送付ください。



### 受講生からのお便り

### ISO9001:2015、14001:2015 内部監査員コースを受講して

品質内部監査員コース(2016年10月大阪会場)受講  
環境内部監査員コース(2016年11月大阪会場)受講

ウシオオプトセミコンダクター株式会社  
LED製造部 LED製作課 徳丸 宗靖

当社は、光学センサー、カスタムオーダーLEDの研究開発並びに生産を行っています。

今回、品質・環境マネジメント内部監査員についての知識と理解を深め、社内の内部監査員の業務対応の為に受講させて頂きました。

ISOのシステムに関しては経験が浅く、受講前は難しいイメージとして捉えていましたが、講師の方の説明がとても分かりやすく、ISOに関しての知識を深めることが出来ました。また、グループワークで実際に内部監査を行う実施演習を行いアドバイス頂くことで、内部監査員としての業務や手法を理解することが出来ました。

今後は、今回の研修で学んだことを生かして、社内での内部監査員としての役割を果たし、品質面と環境面の両面からマネジメントシステムの運用を行っていきます。